

情報連絡員からの報告（要旨）

《製造業》

食料品製造業

1. <宮城県 酒造 >
新型コロナウイルス感染者数が3度目の上昇をしている状況に、飲食店に営業規制がかかり、また厳しい状況に戻ってしまうのではないかと懸念している。
2. <秋田県 精穀・製粉 >
GoToトラベルや各種地域商品券等の効果により、回復傾向がみられた。例年12月は繁忙期となるが、今年は「巣ごもり」が予想され、年末年始の帰省動向が不透明であり、生産計画を立てるのが難しい。
3. <栃木県 和洋菓子製造業 >
GoTo関係で観光地等において人の出が多くなってきたが、第3波での規制で厳しくなっている。特に年末年始に期待していただけに今後が心配である。
4. <東京都 カレー粉製造業 >
家庭用と業務用の需要に大きな差が生じている。家庭用スパイスは大きく伸びているが、外食向けは厳しい。GoToキャンペーンに期待したが、昼間の飲食は回復しつつあるものの、夜間は厳しい状況にある。
5. <三重県 豆腐 >
外食産業への食材としての豆腐油揚げの納品は、10月、11月と少し回復傾向であったが、新型コロナウイルス第3波の影響で、忘年会、新年会が自粛ムードの中、今後、大幅に減少すると思われる。
6. <高知県 食料品製造業 >
11月の市況は、GoToトラベル施策による県外からの観光客が増加し、それに伴い観光関連のお土産の売上が好調であったが、全般的には市場が縮小しており、ダメージはまだまだ続いている。

繊維・同製品製造業

7. <福島県 縫製業 >
来春夏物も自粛の影響でアパレル自体が在庫を過剰に抱えており、新規の発注が見込めずにより厳しさを増すことが予想され、来春夏物が本格化し始める12月下旬からの受注も厳しい。
8. <群馬県 外衣・シャツ製造業 >
既存の仕事の落ち込みは続いたままだが、新規事業を立ち上げたり、アパレル中心だった組合員が企業向けユニフォームの仕事を受注するなど、これまでになかった動きがみられる。
9. <愛知県 毛織物 >
今期は冷え込んでいないので、秋冬物の防寒商品が売れない。GoToトラベル・GoToEatなど他業界は補助政策がある。繊維業界も補助をお願いしたい。
10. <京都府 染色整理業 >
催事が一部で再開してきたが、一般呉服の新規受注が止まったままで製造現場は危機的状況が続いている。雇用調整助成金で雇用を維持しているが、非正規の下請け職人や内職には支援が届いていない。
11. <大阪府 被服製造業 >
全般的には、他のアパレル分野に比べると業績は堅調であるが、コロナ禍の影響で従来のような営業活動ができず、先行きは厳しくなる見込みである。
12. <和歌山県 その他の繊維製品製造 >
例年ならば11月は、来春夏物の生地生産の最盛期にあたるが、今年は前年同月比約50%の生産量である。

木材・木製品製造業

13. <岩手県 一般製材業 >
11月初めの売上が悪く、後半いくらか持ち直したものの前年の数字に届かず。12月も納め市等のイベントで見積等は増えてきたが、動きが良くない。
14. <新潟県 建具製造業 >
建具の11月は市内物件はほぼ前年並み。家具は前月同様、市内の店舗什器が動かない。関東方面も店舗物件が動かない。会社間格差が更に広がる。
15. <石川県 製材業、木製品製造業 >
先月は回復基調だったが、最近の新型コロナウイルス感染拡大が不安である。ここへ来て値上がりが一部資材に出始め、通常この時期の値上がりは珍しく、全く読めない先行きに不安は募る。
16. <岡山県 製材 >
製材品の流通は回復しつつあり製材品価格の上昇も期待される。プレカットについては、7月以降は下振れの状態だったが先月あたりから通常の操業体制に戻ってきた
17. <香川県 家具 >

コロナ禍の中、巣ごもり需要が増加している。特にインターネット販売が好調である。しかしながら、新型コロナウイルス第3波の影響により先行き不透明感がある。

18. < 鹿児島県 木材・木製品製造業 >

プレカット工場は年末にかけて高い稼働率を維持する見込みで国産材・製材品の荷動きも11月以降回復傾向にある。製品価格も極端な安値は一掃され、原木の出材量、価格ともに回復傾向にある。

紙・紙加工品製造業

19. < 群馬県 紙製容器製造業 >

前月より動きは活発になっているが、休日を増やしている企業や時短操業を続ける工場もある。観光地関連は、GoToキャンペーンの影響で一時期より動きはあるものの、例年並みには戻っていない。

20. < 東京都 紙製品製造業 >

コロナ禍において営業活動が難しい状態が続き、売上は減少している。忘年会も中止となり、企業間での情報交換も難しい。値下により売上増加を図る企業も出始めるなど、各社の対応に差が出ている。

21. < 静岡県 パルプ・紙・紙加工品製造業 >

新型コロナウイルスによる自粛が継続し、各業界でイベントが中止されていることから印刷物全般の需要が伸び悩んでいる。

22. < 愛知県 段ボール >

全体として持ち直してきた感じである。土産物関係は駅周辺向けの物は対前年比70%程度であるが、観光地向けは90%強まで回復。シーズン物のクリスマス向けは昨年並であり、家庭向けは100%を超えている状況。

23. < 京都府 紙製容器製造業 >

京都への観光が爆発的に増加していることから、お土産やお菓子など観光関連は好調になっている。一方、半導体を除く輸出関連は相変わらず低調である。

24. < 高知県 機械すき紙製造業 >

例年なら、年末に向け需要が活発になる家庭紙業界であるが、今年は、厳しい状況が続いている。順調に推移していた“除菌ウエットティッシュ”も供給過剰なのか、荷動きが悪くなりつつある。

印刷

25. < 宮城県 印刷 >

11月に入り新型コロナウイルス感染者拡大により、各種イベント開催が危ぶまれる。終息後も紙媒体の回復が見込めず、業界の先行きも不透明になっており、アフターコロナを見据えた業態変革が急務である。

26. < 栃木県 印刷業 >

コロナ禍で印刷を取り巻く環境も一層大きく変わってしまった。多様な価値観で評価される今、効果的な印刷物をきちんと見極める力を持つことが必要と考えられる。

27. < 三重県 印刷 >

新聞の折り込みチラシの多くはサイズが半分（B4判）になっての受注であった。リモート・オンラインにより資料や冊子の電子化が進んでいる等々、コロナ禍により非常に厳しい業況が続いている。

28. < 島根県 印刷 >

引き続き各種イベントの中止・延期に伴い印刷物の発注が減少しており、地元中心の組合員に大きな影響が出ている。

29. < 徳島県 印刷 >

年末を控え景気の上向き気配は全く感じられない。イベント関係だけでなくカレンダーの需要も減少している。厳しい状況が予想される中、出来るだけ固定費を落として体力を温存しておかなければならない。

30. < 宮崎県 印刷・同関連業 >

新型コロナウイルスの影響で売上は前年比で大きな落ち込みとなった。雇用の維持、事業の継続を思えば毎月の数字に直面せざるを得ない。まず変動費の削減、固定費の削減である。

化学・ゴム

31. < 長野県 プラスチック製品製造業 >

成形品はやや持ち直し、金型販売が回復したことにより、売上は昨年同期にまで回復した。今後の受注はやや回復しそうであるため期待したい。

32. < 岐阜県 プラスチック >

新型コロナウイルスの影響について、外食関連及び自動車関連の受注は底を脱したようである。電子材料関連は引き続き堅調に推移している。

33. < 愛知県 高圧ガス >

一部輸送機器関連に回復基調が見られるが企業間の格差が大きい。新型コロナウイルス感染拡大が再燃し、各方面で活動自粛ムードが再び高まってきた。

34. < 大阪府 石鹼洗剤製造業 >

前年同月比で前年を上回る数字だが、手洗い用液体石鹼のみが大きく伸び、他の品目では殆どが前年割れ。コロナ禍での衛生・清潔意識の高まりなどを受け、台所用洗剤や住居用洗剤の需要が高まっている。

35. < 兵庫県 化学・ゴム製造業 >

小売状況の悪化に伴い、発注が減少し、問屋の財務状況が心配である。百貨店のブランド縮小による発注減少もあり、価格の悪化による在庫圧縮の傾向が強く、市場も不安定である。

36. < 島根県 プラスチック製品製造 >

11月に入り大幅に回復となり、売上の伸びは昨年同月比で増加という結果となった。客先からの情報では持ち直しているとのことだが、見通しは不透明とのことで予断は許されない状況である。

窯業・土石製品製造業

37. < 北海道 窯業・土石製品製造業 >

冬の需要減退期を控え10月はある程度売上が戻り、11月は更に伸びた。新型コロナウイルスの感染再拡大で、年明け以降は民間市場が急激に冷え込んでいく可能性が高いと危惧している。

38. < 山梨県 骨材・石工品等製造業 >

舗装用資材の伸びに比べコンクリート用材料の販売量が落ち込み、全体の収益はマイナスとなった。本来の主たる需要先であるコンクリート製品向け工事（特にリニア関連）の発注件数の増加を望んでいる。

39. < 滋賀県 窯業・土石製品製造業 >

令和2年11月の生コンクリート出荷量は、年度当初から出荷量を牽引していた大型工事の生コン打設がどの現場も終了となってきており、単月出荷量は、前年同月比約68%と大きく落ち込んだ。

40. < 徳島県 生コンクリート >

11月の出荷数量は前年同時期と比較して、官民工事とも当初の計画通り出荷が進んでいるが、反して新規工事の減少が影響している。懸念事項としては運転手の高齢化と若年層の人材不足が深刻な問題である。

41. < 愛媛県 石材加工 >

11月は久しぶりに活況だった。現在の経済情勢下で、石材業者がまだ多く、少しずつ自然淘汰が進んでいくと思われる。実力のある業者とそうでない業者の区別がここ数年ではっきりすると思う。

42. < 佐賀県 窯業・土石製品製造業 >

有田焼の需要が見込まれる年末年始の忘・新年会の時期から春の歓送迎会の時期まで大・中規模の宴会の動向が業績に影響するため、新型コロナウイルスの国内での発生状況やその対応策を見守りたい。

鉄鋼・金属製造業

43. < 青森県 鉄鋼製造業 >

価格は依然として厳しい状況が続いているが、安すぎる指値には応じず、適正価格での受注を維持できるように今後も組合員同士連携を強化していきたい。

44. < 福島県 鉄工業 >

補助金の関係なのか春先以降の工場・物流倉庫等の見積もりが散見され始め、今後に期待がもてる。ただし、受注残の少ない会社が低価格の指値をまともに聞いてしまっている状況もみられる。

45. < 富山県 鋳鉄物製造業 >

組合員企業の稼働率は、生産品目により大きなバラツキがあり、小型建設機械関連の受注は回復しつつある。外国人技能実習生が入国できず、生産量が増えてきた企業では人手不足となっている。

46. < 静岡県 金属製品製造業 >

業種によっては急激に回復しているが、総じて売上高・在庫数量・販売価格・取引状況は10月よりも悪くなっている。雇用人数は増加しているが収益には逆効果である。

47. < 愛知県 鉄鋼 >

車関連部品は、売上は当初計画通りの受注を得ており、3月まではこの状態が続く見通し。工作機械部品は対前年比90%程度で着地。ただし回復は遅れており、年明けまで不透明。

48. < 熊本県 異業種 >

新型コロナウイルスの影響で、まだ厳しい状況ではあるものの、前月頃から建設関連を中心に持ち直しの傾向となり、売上増加企業が多くみられるようになった。全体的にも回復基調にあることが窺える。

一般機器製造業

49. < 茨城県 工業団地 >

対象組合員全体の売上増減率は前年同月比119.8%で、得意先の海外向け小型トラクター等の生産が好調に推移し、組合員の大半が前年を大幅に上回る売上を確保できた。今後も引き続き受注増加が見込まれる。

50. < 石川県 機械、機械器具の製造又は加工修理 >

最近になって主に中型・小型の建設機械部門では生産が回復傾向にあり、また半導体関連も堅調に推移している。一方で繊維機械や工作機械については、まだ厳しい状況が続いている。

51. < 福井県 機械工業 >

組合青年部がTVCMを制作・出演し業界PRやオンラインによる展示会に出展する企業が増えていることから、組合として動画制作や動画を活用したPRについてセミナー等の開催を検討し始めている。

52. < 三重県 津市 >

前半の受注減の反動により、自動車関連については100%を超えたが、急激な注文増により材料の納入が追いつかない状況である。3ヶ月後の反動減の可能性もあり、先が読めない状況である。

53. < 奈良県 機械 >

機械部品等は、年明けにかけて受注状況は一層厳しくなると見込み。産業全般を牽引してきた自動車部品業界も一極集中が鮮明になり、技術力が乏しい下請企業は受注の減少傾向が続くものと思われる。

54. < 徳島県 機械金属 >

熟練技術者をはじめ従業員の確保難、原材料価格その他の経費の増加なども、直面する経営上の課題として見受けられ、先行きの見通しが不透明で、将来に対する不安感が拭えない状況である。

電気機器製造業

55. < 群馬県 民生用電気機械器具製造業 >

決算や年末商戦に向けて繁忙期になっており、増産傾向が強まっている。一方で新型コロナウイルス感染拡大第3波の影響を受け、既存設備メンテナンスの受注を控えているため、今後は減少傾向となる見込み。

56. < 山梨県 電気機械器具製造業 >

11月は半導体設備や車関係の部品メーカーの売上は回復傾向となった。航空部品や医療関係機器に係る部品などの受注は減少しており、前年同月比売上は▲30%となり、未だに悪化した状況が続いている。

57. < 長野県 電子機械器具製造業 >

春先までの一時的な動きという話もあるが、中国の経済が活性化したと同時に自動車関連の製造が動き出し、回復傾向にある(自動車メーカーによる格差がある)。

58. < 静岡県 電気機械器具製造業 >

外出自粛の影響か、冷蔵庫は大型機種需要が好調に推移。家庭用エアコンも在宅時間の増加により、省エネ機種の需要が伸びている。業務用エアコンは海外需要の伸びに伴い生産が上向いてきている。

59. < 京都府 電機機械器具製造業 >

一部業態に好転の兆しが見受けられる。コロナ禍のなか、ビジネス様式の変化に伴いIT化対応の重要性が顕在化した。組合として今後の重要課題として取り組んでいきたい。

60. < 兵庫県 電気機器製造業 >

自動車関連部品の生産量の戻りは悪く、新車販売台数減少、中古車販売数増加等の影響と分析。コロナ以前の100%の戻りは期待できず、80%程度の戻りで工場設備、雇用状態などの見直しの必要性がある。

輸送用機器製造業

61. < 静岡県 輸送用機械器具製造業 >

全体生産量は増加しているが、受注部品によってバラツキがあり企業間で繁閑差が出ている。今年度は生産量を確保できる計画だが、新型コロナウイルスの終息が見えない中、次年度の見通しが立たない状況。

62. < 愛知県 輸送機器 >

前年同月と大きな変化はなく年末を迎える。第3波のコロナ禍逆境を好機に景況感は確実に改善しつつあるが、先行き不透明感から設備投資意欲は今一歩である。

63. < 三重県 鈴鹿 >

直近の計画数や内示数は急激に需要が回復し繁忙だが、前年同月比ではまだマイナスである。団地内の試作開発を主とする企業は新規の仕事が多数延期になり、規模を縮小して事業継続することになった。

64. < 兵庫県 輸送用機器製造業 >

主な取引部門の操業予測は依然として厳しい状況ではあるものの、今年度は増加する見込みである。しかし、各部門の操業見込みは決して良くはないので、今後の取引状況も予断を許さない。

65. < 山口県 鉄道車両・同部品製造業 >

鉄道車両関係は概ね良好。半導体は当初の予定よりは多少受注が減少している。産業プラント部門が下松からの撤退発表を機に調整作業になっている。

66. < 愛媛県 造船 >

造船業界は少数ではあるが新規で外国人労働者の雇用という話も出始めている。帰国が迫る外国人労働者で、帰国困難な者については特定活動への変更を進めている。

その他の製造業

67. < 秋田県 漆器 >

10月からの工芸館の販売アイテム増加と、GoToトラベル事業の観光客増加の相乗効果で、例年よりも大きく上回る売上高となった。一方で、県外の催事参加業者の売上は回復にはほど遠い状況である

68. < 福島県 漆器 >

百貨店等の動きはほとんど見られない。GoToトラベル地域クーポンのおかげで小売部門は好調。

69. < 東京都 スポーツ用品製造業 >

卓球は部活動の新入部員が唯一増加しているスポーツだったが、新型コロナウイルスの影響で他の競技同様厳しくなった。一方で、部活動や競技大会が再開し、メーカーによる新商品企画等の動きが出てきた。

70. < 石川県 漆器製造業 >

展示販売会は、開催されるようになってきたが、販売につながる来客が少ない。観光は、GoToキャンペーンの影響もあり、前年比で7~8割まで回復したが、その後が見通せない状況である。

71. < 兵庫県 その他製造業 >

アウトドアや釣りがブチブームとなり9月初旬頃から10月、11月においても順調な売上高で推移。この好調な釣りブームを一過性ではなく、如何に将来につなげていくことが出来るのかが大きな課題である。

72. < 鹿児島県 茶製造業 >

共販実績で11月単月では前年比104.4%で推移した。統一販売会(静岡、京都、福岡)の2会場で前年より売上が増加した。しかし、これまでの月で販売会の開催中止があったため累計では減少している。

《非製造業》

卸売業

73. <千葉県 医薬品卸売 >
新型コロナウイルス第3波により、病院の病床数が逼迫しており、受診患者数や手術の実施件数が減少している。それに伴い、医薬品の使用も減少している。
74. <広島県 卸売業（電設資材） >
全体的には持ち直しの動きが見られるが、住宅市場では着工件数減少による影響が継続している。民間企業の設備投資案件が少しずつ増加し、見積件数も前年比増加となり、期待感がもてる。
75. <福岡県 古紙卸売業 >
中国向けの輸出が12月15日までの船積みを最後に停止するため、11月は古紙の引合が強かった。また、国内製紙会社の引合も強く、各社ともに在庫を抱えることは無かった。
76. <大分県 食糧集荷 >
外食産業の悪化に伴い、得意先である米穀小売店が特に影響を受けている。小売店では数量が捌けず、顧客からの値下げ圧力が強くなっても販売せざるを得ず、収益が悪化、当業界への影響が心配である。
77. <鹿児島県 総合卸売業 >
建設資材関連企業の新築需要は減退している。リフォーム関連の突発的な受注に備え、在庫を厚めに持たざるを得ない。建設関連、農業資材関連の企業では、人手不足が解消されていない。
78. <沖縄県 青果卸売業 >
全国的に安定した天候に恵まれ、秋果実・野菜共に豊作の状態。一方、新型コロナウイルスの感染拡大から外食・業務向けの需要が落ち込み、市場価格は暴落し、値引き販売の増加に繋がっている。

小売業

79. <山形県 野菜小売業 >
今月も前月同様相場が低迷し、新聞・テレビ等でも報道された。特に、地場産の白菜大根、長ネギ、キャベツ等が安く、前年より3割以上の安値で取引されている。
80. <茨城県 石油 >
コロナ禍による石油燃料の消費は9割程度で、未だに10割まで回復していない。また、大手業者が販売量を増やすべく安値で販売をしており、地元業者は適正なマージン確保に至っていない。
81. <埼玉県 人形小売業 >
新型コロナウイルス感染拡大防止のため、毎年恒例の人形供養祭を無観客で実施した。流しびなの準備も始まった。意匠開発事業が新商品製作過程に入った。
82. <神奈川県 青果 >
11月は天候にも恵まれ、大型野菜を中心に各産地、生育順調で潤沢な入荷が続いた。相場は例年と比べて下回った状況で、大型店の販売競争のあおりを受け、小売店の販売環境はますます厳しくなっている。
83. <香川県 電機 >
新型コロナウイルスの影響から持ち直す動きが出始めている。白物家電分野では予想以上に回復している。巣ごもり需要などの高まりからエアコンや各種調理家電、冷蔵庫、洗濯機など好調に推移している。
84. <長崎県 生花販売 >
景気は決して良くないが国の支援事業のおかげで花の相場は支えられている。花屋は原価率の悪さが目立った。新型コロナウイルス第3波が始まり2月の婚礼キャンセルが出始めた。

商店街

85. <青森県 異業種 >
新型コロナウイルスの影響で、飲食店は相変わらず厳しい状況におかれている。また、業種問わず人手不足があり、スタッフを募集しているところが多い。
86. <神奈川県 商店街 >
11月は元気回復プレミアム商品券が発売され、売上は好転したが、再びブレーキがかかっている。12月恒例のクリスマス抽選会は行わず、HP上で発表する宝くじ方式のイベントに変更し、歳末商戦を迎えたい。
87. <岡山県 商店街 >
商店街ではGoTo商店街事業の採択通知を受けて、12月の実施に向け手書きPOP講習会やBASE勉強会の開催を予定している。
88. <広島県 商店街 >
今月はGoToキャンペーンの効果もあり、日曜及び祝日の人出は増加したが、夕方以降の人出は減少している。
89. <福岡県 商店街 >
空き店舗は少なくなったものの、夜中心の飲食店が多くなっているため、昼間の商店街活性化を考えていかなければならない。

90. <大分県 商店街 >
少し持ち直してきた感があったが、県内での再度の感染拡大により、先行きが厳しくなった感がある。再拡大の影響で商店街の人通りは再び少なくなっている。

サービス業

91. <北海道 ソフトウェア >
比較的元気な道内IT業界に就活する新卒学生が増加しているが、コロナ感染再拡大の現状では、今後の業績予測が難しいことから、採用者数は必要最小限に絞り込むIT企業が多い。
92. <埼玉県 学習塾 >
今年は、新型コロナウイルスの影響で私立高校の塾対象説明会は、オンライン説明会が多く、足を運ぶ労力は軽減されるものの、対面の説明会と違ってやや迫りに欠ける。
93. <鳥取県 観光業 >
11月はGoToトラベルにより鳥取砂丘、砂の美術館への入込数は増加で推移していたものの、コロナ感染拡大の影響で、急激に入込数が減少している。
94. <愛媛県 ビルメンテナンス >
県内の有効求人倍率は低下しているが、清掃業界では人手不足で、当組合直営事業でも欠員が生じている。最低賃金が10月から3円上がり、人件費がコストの大部分を占めており、大変厳しい。
95. <福岡県 旅館、ホテル >
引き続き、GoToトラベル効果が続き、11月のトップシーズンと重なり好調となっている。マイクロツーリズムが推奨されることで県内唯一の温泉地というアドバンテージが功を奏している。
96. <沖縄県 ホテル旅館業 >
GoToトラベルで個人予約は増えているが、12月に実施予定だった修学旅行が感染者増加により、キャンセルになるなど、一般団体や修学旅行が大幅に減少し、個人客でまかなえる状態ではない。

建設業

97. <北海道 左官工事 >
多くの事業所で人手不足の状況が見られる。熟練技能者や従業員の確保が喫緊の課題となっている。
98. <群馬県 電気工事業 >
新型コロナウイルス感染拡大を受けてweb通信やリモートによる打ち合わせを導入し、作業効率が上昇している。出社せずに済む態勢を整え、感染拡大防止に努める組合員企業が増えている。
99. <神奈川県 電気工事 >
新型コロナウイルス感染拡大の影響で春・夏・秋とイベントが中止となった。見積もり件数が減少しているが、業界で特に問題となっているのは若手人材の不足である。
100. <石川県 板金・金物工事業 >
11月の売上及び収益は前年度水準までに確実に回復してきていることが実感できるようになった。前月同様大きな変化はないものの確実に好転に向けて進んでいる。
101. <岐阜県 管設備工事 >
コロナ禍の中、この先が不安ではあるが、平年のように年度末へ向けて仕事量は増加している。民間の住宅（建売）着工件数も前年と同程度にて推移している。ただ一部で止まっている仕事もある。
102. <山口県 左官業 >
工事の減少と受注単価の低下に苦慮する事業所が増えている。技能者の減少も更に進んでいる。総合工事業者の安値受注に拍車がかかっている。

運輸業

103. <新潟県 一般乗用旅客自動車運送業 >
市の300円チケット配布、県による広報、県ハイヤー・タクシー協会で行う需要拡大策等により、エッセンシャルワーカーとしてのタクシーが再認識され、昨年位まで需要が伸びて欲しいものと期待している。
104. <石川県 一般貨物自動車運送業 >
輸送需要は対前年比96.1%で減少しているが、前月の減少率より好転している。特に新型コロナウイルスの影響で対輸送対象品目により減少幅の相違が顕著である。
105. <三重県 トラック >
軽油価格はほぼ横ばいで推移した。国内景気は輸出や生産関連が緩やかに回復基調にあり、個人消費も弱いながら回復傾向にあるため、運輸業においても取扱い貨物量の増加が続いている。
106. <奈良県 軽貨物運送 >
チャーター便は製造業関連、建設業関連で多少上向いているが、印刷関連は非常に悪い状況である。単身者の引越しは非常に少なく家具・家電数点の移動や高齢者施設関連の受注が中心となっている。
107. <広島県 道路貨物運送業 >
働き方改革によるドライバーの賃金見直しや職場環境改善のため、荷主に値上げを要請したいが、荷主も売上が伸びず、物流コストを削減したく、安価な運送会社へ仕事が流れる可能性もあり、静観している。

108. < 熊 本 県 一般貨物自動車運送業 >

荷物の状況は衣類は減少、食は一般向けが増加、酒や業務用の冷食は減少、住関係は不変である。全国組織の求荷求車のネットワークでも荷が著しく減少し、運賃も足元を見られたように安くなっている。

その他の非製造業

109. < 宮 城 県 不動産 >

1LDK~2LDKの新婚さん向け賃貸マンションの問い合わせが多かった。例年5~6月に問い合わせが増えるが、今年は新型コロナウイルスの影響で秋まで見合わせていたと思われる。

110. < 神 奈 川 県 歯科技工 >

経済事業は順調に消化されているが、感染拡大を防ぐ観点から、令和3年新年会は中止、経営研修会は再延期した。このまま新型コロナウイルスが収束しなければ、組合事業の再構築を考える時期にきている。

111. < 兵 庫 県 社会福祉・介護事業 >

技能実習生については少し動きだした状況。ただ、入国に際しての対策は試行錯誤しながら対応している。配属に関しては、2週間の待機期間が設定されているため、通常の入入れより遅れる。

112. < 岡 山 県 信用組合 >

新型コロナウイルスの影響は一時回復した業種もあったが、11月後半に入り後退してきている。中小企業者の売上に繋がる組合内でビジネスマッチング等を計画しており、支援体制の強化も図る予定である。

113. < 広 島 県 不動産業 >

賃貸飲食店ビルのオーナーの中には店子に対して家賃減額補助を3月迄行うところもある。コロナ禍による不透明感はあるが、低金利政策等により戸建て需要は堅調、分譲マンションは低調な推移になっている。

114. < 鹿 児 島 県 造園工事業 >

公共の環境整備工事が多くなり、また、民間の企業・個人の庭園整備剪定業務も増加した。年末を控えた季節的な忙しさもあり、売上は若干ではあるものの前年同月を上回った。